



第16回生

速水 優氏

前日本銀行総裁

- 昭和22年 東京商科大学 (現一橋大学) 卒
- 昭和22年 日本銀行入行 大分支店長、外国局長、名古屋支店長を経て、
- 昭和53年 理事。
- 昭和56年 理事退任後、日商岩井(株)社長、会長、経済同友会代表幹事をを経て、
- 平成10年 日本銀行総裁就任。
- 平成15年 任期満了により総裁退任。

同窓生

シリーズ 53

東京府立 第六中学校の おもいで

私は大正十四年に神戸で生れ、昭和ヒトケタは阪神間の芦屋の海岸に住んでいた。

幼稚園は芦屋、小学校は御影師範附属(現在神戸大学附属)に通った。

当時はあのあたりは外人も多く、今にして思えば、大正デモクラシーの余韻というか、ルネッサンスの香りというか、落ちていた住宅環境の中で育った。

昭和フタケタになって、父親の転任で東京に住むこととなり、中野の北の方で当時はまだ畑と野原の多い土地に家を建てて住んだ。中学は支那事変の始まった昭和十二年からであったが、近くに住んでいた同年の従兄弟と話し合っって通うのに便利な六中を決めた。

当時の六中は初代の阿部宗孝校長から二代目の二階源市先生に代わり、世間も急速に戦時下、軍事化へ移行しつつあった。古い先生方は開学以来の個性重視の教育を下さっていたが、全体として、皇室重視、戦時体制移行への傾向が強く、幼年学校・陸士・海兵等への志願者が増え、いったつように思う。

当時の制服は、折り襟のダーク・ブルー(夏はしもふり)に金ボタン、白いカバンを肩からかけ、冬は黒いマントを着ることが許された。

ズボンは長ズボンだが、ポケットに手を突っ込まないように両側のポ

ケットは閉められていた。

皇室重視が強調されたのは、六中の土地そのものが新宿御苑の一角が府に下賜され、府立の中学を建てたと聞いており、その他にも明治神宮に近く、何かにつけ、明治神宮参拝と代々木錬兵場への往復が行事や教練でよく行われた。

特に明治天皇については、毎朝の朝礼で週毎にかわる御製の和歌を全員で拝唱した。とりわけ

「さし昇る

朝日の如くさわやかに

もたまほしきは

心なりけり」

の御製は、式日等には必ず唱和し、六中の帽子の徽章も旭日をえがいた金色の六角形の土台に「中」の字が書かれたものであった。

もう一つ、忘れられないのは「興国の鐘」である。日露戦争に勝った海戦の時の旗艦「三笠」の鐘を下付してもらい、これを鳴らす立派な鐘塔を朝礼台と共に作り、記念の日は校長がこれを三回鳴らし、普段の日は副校長が副鐘をならしておられた。校庭は決して広くはなかったが、立派な雨天体操場、柔剣道の道場、プールなどが新宿の賑わいとこの境をつくり、また、新宿御苑に面した側の教室は、美しい木々とかわった鳥の声が聞こえ、静かに授業が受けられた。その他、塩見海岸の合宿や烏山園芸場での作業、叩心寮での宿泊など懐かしい思い出も多い。

最後の年に大東亜戦争が始まり、軍国主義は一層強まったが、一方で水田先生の指導で合唱団をやったり、仲間と軽音楽バンドをやったりしながらも、希望の一橋予科に入学できたことは六中に感謝している。